

12/12 Mon.

第623回 定期演奏会
サントリーホール 19時開演
SUBSCRIPTION CONCERT No.623 / Suntory Hall 19:00

指揮
Principal Conductor
ピアノ
Piano
コンサートマスター
Concertmaster

チャイコフスキー
TCHAIKOVSKY

[休憩]
[Intermission]

タネーエフ
TANEYEV

セバスティアン・ヴァイグレ (常任指揮者) -p.5
SEBASTIAN WEIGLE
反田恭平 -p.7
KYOHEI SORITA
長原幸太
KOTA NAGAHARA

ピアノ協奏曲 第2番 ト長調 作品44 [約40分] -p.12
Piano Concerto No. 2 in G major, op. 44
I. Allegro brillante e molto vivace
II. Andante non troppo
III. Allegro con fuoco

交響曲 第4番 ハ短調 作品12 [約42分] -p.13
Symphony No. 4 in C minor, op. 12
I. Allegro molto
II. Adagio
III. Scherzo: Vivace
IV. Finale: Allegro energico – Molto maestoso

主催：読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団
助成：文化庁文化芸術振興費補助金（舞台芸術創造活動活性化事業）
文化庁 独立行政法人日本芸術文化振興会
協力：アフラック生命保険株式会社
※本公演では日本テレビ「読響プレミア」の収録が行われます。

12/17 Sat.

第253回 土曜マチネーシリーズ
東京芸術劇場コンサートホール 14時開演
SATURDAY MATINÉE SERIES No.253 / Tokyo Metropolitan Theatre 14:00

12/18 Sun.

第253回 日曜マチネーシリーズ
東京芸術劇場コンサートホール 14時開演
SUNDAY MATINÉE SERIES No.253 / Tokyo Metropolitan Theatre 14:00

12/21 Wed.

第658回 名曲シリーズ
サントリーホール 19時開演
POPULAR SERIES No.658/ Suntory Hall 19:00

12/22 Thu.

第34回 大阪定期演奏会
フェスティバルホール 19時開演
SUBSCRIPTION CONCERT IN OSAKA, No.34 / Festival Hall 19:00

指揮
Associate Conductor & Creative Partner

ベートーヴェン
BEETHOVEN

鈴木優人 (指揮者/クリエイティブ・パートナー) -p.6
MASATO SUZUKI
※他の出演アーティストは次ページをご参照ください。

交響曲 第9番 ニ短調 作品125 〈合唱付き〉 [約65分] -p.16
Symphony No. 9 in D minor, op. 125 "Choral"
I. Allegro ma non troppo, un poco maestoso
II. Molto vivace
III. Adagio molto e cantabile
IV. Presto – Allegro assai

※東京公演の前半には、鈴木優人によるオルガン独奏 (約15分) があります。
*Masato Suzuki will appear for solo organ performance (about 15min) in the first half of the concerts in Tokyo.
※12/22公演には休憩がございません。あらかじめご了承ください。
*No intermission for 12/22

主催：読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団
助成：文化庁文化芸術振興費補助金（舞台芸術創造活動活性化事業）(12/17、18、21)
文化庁 独立行政法人日本芸術文化振興会 (12/17、18、21)
共催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京芸術劇場 (12/17、18)
協賛：非破壊検査株式会社、大和ハウス工業株式会社 (12/22)
協力：コジマ・コンサートマネジメント (12/22)

12/16 Fri.

大成建設 Presents 〈第九〉特別演奏会
東京芸術劇場コンサートホール 19時開演
SPECIAL CONCERT, presented by TAISEI / Tokyo Metropolitan Theatre 19:00

12/20 Tue.

SHINRYO Presents 〈第九〉特別演奏会
サントリーホール 19時開演
SPECIAL CONCERT, presented by SHINRYO / Suntory Hall 19:00

12/25 Sun.

大成建設 Presents 〈第九〉特別演奏会
横浜みなとみらいホール 14時開演
SPECIAL CONCERT, presented by TAISEI / Yokohama Minato Mirai Hall 14:00

指揮
Associate Conductor & Creative Partner

ソプラノ
Soprano

メゾ・ソプラノ
Mezzo Soprano

テノール
Tenor

バス
Bass

合唱
Chorus

合唱指揮
Chorusmaster
コンサートマスター
Concertmaster

ベートーヴェン
BEETHOVEN

鈴木優人 (指揮者／クリエイティブ・パートナー) -p.6
MASATO SUZUKI

キャロリン・サンプソン -p.7
CAROLYN SAMPSON

オリヴィア・フェアミュレン -p.8
OLIVIA VERMEULEN

櫻田 亮 -p.8
MAKOTO SAKURADA

クリスティアン・イムラー -p.9
CHRISTIAN IMMLER

新国立劇場合唱団 -p.9
NEW NATIONAL THEATRE CHORUS

富平恭平 -p.10
KYOHEI TOMIHIRA

小森谷 巧
TAKUMI KOMORIYA

交響曲 第9番 二短調 作品125 〈合唱付き〉 [約65分] -p.16
Symphony No. 9 in D minor, op. 125 "Choral"

I. Allegro ma non troppo, un poco maestoso
II. Molto vivace
III. Adagio molto e cantabile
IV. Presto - Allegro assai

※東京・横浜公演の前半には、鈴木優人によるオルガン独奏 (約15分) があります。

*Masato Suzuki will appear for solo organ performance (about 15min) in the first half of the concerts in Tokyo and Yokohama.

主催：読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団

特別協賛：大成建設株式会社 (12/16、25)、新菱冷熱工業株式会社 (12/20)

助成：文化庁「ARTS for the future! 2」補助対象事業 (12/16、25)

事業提携：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京芸術劇場 (12/16)

協力：横浜みなとみらいホール (12/25)

※12月16日公演では日本テレビ「読響プレミア」の収録が行われます。

ARTS for the future! 2

指揮

セバスティアン・ヴァイグレ
(常任指揮者)

SEBASTIAN WEIGLE, Principal Conductor

ヴァイグレの力強いタクトが、
隠れた名作に光を当てる



名匠ヴァイグレが、チャイコフスキーの弟子にしてピアノ協奏曲第2番ロシア初演のソリストを務めたタネーエフの交響曲を披露。広大な大地を思わせるスケールの大きな音楽を描き出す。

1961年ベルリン生まれ。82年にベルリン国立歌劇場管の首席ホルン奏者となった後、巨匠バレンボイムの勧めで指揮者へ転身。2003年にはフランクフルト歌劇場などで活躍し、ドイツのオペラ雑誌『オーパンヴェルト』の「年間最優秀指揮者」に選ばれ注目を浴びた。04年から09年までリセウ大劇場の音楽総監督を務め、評判を呼んだ。08年からフランクフルト歌劇場の音楽総監督を務める。11年に同歌劇場管が『オーパンヴェルト』誌の「年間最優秀オーケストラ」に、15年、18年、20年には同歌劇場が「年間最優秀歌劇場」に輝くなど、その手腕は高く評価されている。21年にはメトロポリタン歌劇場でムソルグスキー〈ボリス・ゴドゥノフ〉を、今年7月にはミュンヘン・オペラ・フェスティバルでR. シュトラウス〈影のない女〉を指揮するなど、国際的な活躍を続ける。これまでに、バイロイト音楽祭、ザルツブルク音楽祭に出演したほか、ウィーン国立歌劇場、ベルリン国立歌劇場、ドレスデン国立歌劇場、バイエルン国立歌劇場などに客演。ベルリン放送響、ウィーン響、フランクフルト放送響などの一流楽団とも共演を重ねている。

読響には16年8月に初登場。オペラでは19年の東京二期会のR. シュトラウス〈サロメ〉(第28回三菱UFJ信託音楽賞受賞)、今年7月のワーグナー〈パルジファル〉などで共演し、いずれも好評を博した。

12/12
定期

Maestro

12/16

12/25

〈第九〉公演

Maestro

指揮

鈴木優人

(指揮者／クリエイティブ・パートナー)

MASATO SUZUKI,
Associate Conductor & Creative Partner**新時代の旗手マサトが
〈第九〉を鮮烈に響かせる！**

はちめんろっぴ
八面六臂の活躍で音楽界の未来を切り開く革命児・鈴木優人が、研ぎ澄まされた考察と独特のセンスで、人類が生んだ最高傑作〈第九〉を高らかに響かせる。

1981年オランダ生まれ。東京芸術大学卒業および同大学院修了。オランダ・ハーグ王立音楽院修了。指揮者として国内外のオーケストラと共演するほか、鍵盤楽器奏者としても活躍している。音楽監督を務めるアンサンブル・ジェネシスでは、オリジナル楽器でバロックから現代音楽まで意欲的なプログラムを展開している。

2018年にバッハ・コレギウム・ジャパン (BCJ) の首席指揮者に就任。BCJオペラシリーズのプロデューサーを務め、20年のヘンデル〈リナルド〉は、バロック・オペラの新機軸として高く評価された。また、19年から世界的ヴィオラ奏者タメスティとのデュオでチェンバロを弾く「バッハ・プロジェクト」を開始し、ヴェルビエ音楽祭などに出演。今年4月にはドイツ・ハンブルク響に客演し、5月にはグルック〈オルフェオとエウリディーチェ〉で新国立劇場に指揮者として初登場した。

作曲家としても活躍するほか、13年から調布国際音楽祭のエグゼクティブ・プロデューサーを務めるなど、活動は多岐にわたる。NHK-FM「古楽の楽しみ」に出演中。齋藤秀雄メモリアル基金賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞、渡邊暁雄音楽基金音楽賞など受賞多数。20年4月より読響の指揮者／クリエイティブ・パートナーを務め、多数公演を指揮するほか、《アンサンブル・シリーズ》をプロデュース。昨年9月にはオルガニストとしても出演するなど活躍は多岐にわたる。九州大学客員教授。



©Yuji Ueno

ピアノ

反田恭平

KYOHEI SORITA, Piano

2021年のショパン国際ピアノ・コンクールで第2位を受賞。クラシック音楽界に革命をもたらすカリスマ。モスクワ音楽院を経て、ショパン音楽大学で学び、ウィーンでは指揮の勉強もしている。2012年日本音楽コンクール優勝。15年ロシア国際音楽祭でマリインスキー劇場にデビュー以降、N響、都響など国内の主要楽団や、ベルリン・ドイツ響、ロシア・ナショナル管、ワルシャワ国立フィル、RAI国立響などと共演。自身が創設したジャパン・ナショナル・オーケストラで全国ツアーを開催するほか、新レーベル「NOVA Record」を設立。20年にはウィーン楽友協会にデビュー。TBS系テレビ「情熱大陸」、テレビ朝日「徹子の部屋」「題名のない音楽会」など多くのメディアに出演。第27回出光音楽賞受賞。読響とは18年8月の初登場以来、共演を重ねる。

コンサートとオペラの両分野で成功を収め、国際的に活躍し続ける英国を代表する歌姫。イングリッシュ・ナショナル・オペラでデビュー以降、モーツァルト〈魔笛〉のパミーナ、ドビュッシー〈ペレアスとメリザンド〉のメリザンドなどで、パリ・オペラ座やモンペリエ国立歌劇場、ラン国立歌劇場に出演するほか、BBCプロムスやグラインドボーン音楽祭、ボストン古楽音楽祭にも登場。ポルトン、ネルソンス、ネゼ＝セガンらの指揮で、コンセルトヘボウ管、ゲヴァントハウス管、ウィーン響、ボストン響、サンフランシスコ響、フィラデルフィア管、バーミンガム市響などと共演。CDはBISレーベルなどからリリースし、いずれも高い評価を得ている。日本ではバッハ・コレギウム・ジャパンとたびたび共演。読響初登場。



©Marco Borggreve

ソプラノ

キャロリン・サンプソン

CAROLYN SAMPSON, Soprano

12/12

定期

Artist

12/16

12/25

〈第九〉公演

Artist

12/16

12/25

〈第九〉公演

Artist



©Felix Broede

メゾ・ソプラノ

オリヴィア・ フェアミュレン

OLIVIA VERMEULEN,
Mezzo Soprano

バロック音楽から現代作品まで多岐にわたる才能が国際的に評価されるメゾ・ソプラノ。ベルリン芸術大学で学ぶ。バイエルン放送主催の国際音楽コンクール優勝など受賞歴多数。ヤノフスキ、ハーディング、ヤーコプス、ツァグロゼク、ネトピルらの指揮で、ベルリン国立歌劇場、パリ・オペラ座、チューリヒ歌劇場や、ミュンヘン・オペラ・フェスティバル、ブレゲンツ音楽祭、ルール・トリエンナーレなど数々の音楽祭にも出演。ベルリン・フィル、ロンドン響、18世紀オーケストラなど世界の著名楽団と共演している。バロック作品にも情熱を注いでおり、鈴木雅明指揮のバッハ・コレギウム・ジャパンのバッハ〈マタイ受難曲〉やグラモフォン賞を受賞したモーツァルト〈ミサ曲 八長調〉のCD録音にも参加している。読響初登場。

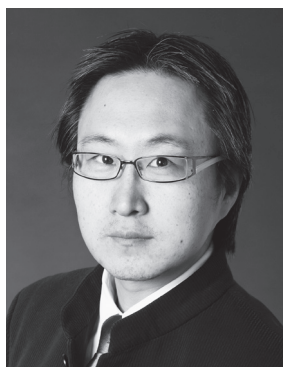
12/16

12/25

〈第九〉公演

Artist

伸びやかな歌唱でバロックから古典派のレパートリーを中心に国際的に活躍する俊英。東京芸術大学大学院修了後、ボローニャ音楽院にて研鑽を積む。イタリア声楽コンクール・シエナ部門大賞、ブルージュ国際古楽コンクール第2位。サヴァリッシュ、サヴァールらの指揮で、国内外の多くの楽団と共演するほか、新国立劇場〈ドン・ジョヴァンニ〉のドン・オッターヴィオなど数多くのオペラにも出演。バッハ・コレギウム・ジャパンとはレコーディングやコンサートで多数共演し、鈴木雅明からの指名でエヴァンゲリストも担っている。2019年に初めてとなるCD『あなたはすべて私のものだった』をリリース。東京芸術大学教授。二期会会員。日本イタリア古楽協会運営委員長。読響とは03年以来、3度目の共演。



©Ribaltaluce

テノール

櫻田 亮

MAKOTO SAKURADA, Tenor



©Marco Borggreve

バス

クリスティアン・ イムラー

CHRISTIAN IMMELER, Bass

アーノンクールやミンコフスキら名匠と共演するなど、国際的に活躍するドイツ出身のバス。ロンドンのギルドホール音楽学校で学び、2001年パリのナディア&リリー・ブーランジェ・コンクールで優勝以降、ソリストとして世界各地の主要楽団や指揮者と共演を重ねている。特にバッハ作品を得意としており、ミンコフスキ指揮〈口短調ミサ〉やヘレヴェッヘ指揮〈ヨハネ受難曲〉など数多くのコンサートに出演し、好評を博す。ボストン古楽音楽祭のモンテヴェルディ〈ポッペアの戴冠〉などのオペラに出演するほか、欧米各地でリサイタルを開催。16年にグラミー賞にノミネートされたCDを含む、50以上の録音を残す。日本ではバッハ・コレギウム・ジャパンと多数共演し好評を博した。読響初登場。

合唱

新国立劇場合唱団

NEW NATIONAL THEATRE CHORUS, Chorus

1997年にオープンした新国立劇場で、オペラ公演のための合唱団として活動を開始。厳正な審査によって選ばれるメンバーは100名を超え、新国立劇場が上演する多様なオペラ公演を通じて、年々レパートリーを増やしている。個々のメンバーは高水準の歌唱力と優れた演技力を有しており、合唱団としての優れたアンサンブル能力と豊かな声量を誇る。その確かな実力で、公演ごとに共演する出演者、指揮者、演出家をはじめ、国内外のメディアからも高い評価を得ている。読響とは2007年以降、年末の〈第九〉公演をはじめ数多く共演。特にラヴェル〈ダフニスとクロエ〉、ストラヴィンスキー〈詩篇交響曲〉、メシアン〈アッシジの聖フランチェスコ〉、ショスタコーヴィチ〈バビ・ヤール〉、ブラームス〈ドイツ・レクイエム〉での見事な歌唱が絶賛を博した。

12/16

12/25

〈第九〉公演

Artist

12/16

12/25

〈第九〉公演

Artist

12/16

12/25

〈第九〉公演

Artist



合唱指揮

富平恭平KYOHEI TOMIHIRA,
Chorusmaster

東京都出身。東京芸術大学指揮科卒業。指揮を高関健、田中良和、小田野宏之に師事。東京二期会、新国立劇場、藤原歌劇団、日生劇場等のオペラ公演で副指揮、合唱指揮、コレペティートルを務めた。これまでに、〈フィガロの結婚〉〈椿姫〉〈パルジファル〉〈カルメン〉〈ばらの騎士〉〈エフゲニー・オネーギン〉〈ルル〉など、多数のオペラを手がけている。読響とは2017年の〈アッシジの聖フランチェスコ〉、19年の〈バビ・ヤール〉、22年の〈ドイツ・レクイエム〉などで新国立劇場合唱団の合唱指揮を務め、好評を博した。群馬響、東京シティ・フィル、東京フィル、東京響などにも客演。東京二期会音楽スタッフ、新国立劇場音楽スタッフなどを経て、19年4月に新国立劇場合唱指揮者に就任。洗足学園音楽大学非常勤講師。

チャイコフスキー

ピアノ協奏曲 第2番 ト長調 作品44

ロシアの音楽史は、ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー（1840～93）を画期として、それより前と以後とに分けられる。様式史としてそう言えるわけだが、そもそもその差異は、音楽教育制度の改革がもたらしたものだ。

1862年、ロシアにペテルブルク音楽院が開設された。この学校の目的は、ドイツ式の教育法によって、ロシアにプロの音楽家を育てることだった。この音楽院の初期の学生のひとりが、63年に入学したチャイコフスキーである。

それまでのロシアの作曲家は官僚や将校、大学教授といった地主階級のセミプロだった。チャイコフスキーは西欧風の教育によってロシア国内で育てられた、最初の音楽家ということになる。この系譜は以後、ロシアの作曲家に受け継がれていく。その歴史の中でチャイコフスキーのすぐ後を襲うのが、タネーエフその人である（次頁参照）。

さて、75年に完成させた第1協奏曲は当初、識者に酷評された。しかし初演後、徐々に評価を得ていく“我が子”の姿を見て作曲家は、2番目のコンチェルトに取り掛かる決心を固めた。例によって批判におびえつつもチャイコフスキーは「私は（第2番に）たいへん満足している」と支援者への手紙に記している。

第1楽章 第1主題と第2主題の結びつきに作曲家の創意が光る。長短短長長長（タータターター）の韻律を持つ第1主題に対して、第2主題はそれをひっくり返した長長長短短長（タータータータター）のリズム。このコントラストが、調の対比、独奏・総奏の対比とともに、この楽章の二元性を強める。

第2楽章 ヴァイオリン協奏曲のように始まる。そこに独奏チェロが加わり、しかるのちピアノが登場する。

第3楽章 装飾的な上行音型がエネルギーの立ち昇るさまを表す「A」と、長短長長の弾む韻律が曲を推し進める「B」とが交錯するロンド。一気呵成に作品を締める。
〈澤谷夏樹 音楽評論家〉

作曲：1879～80年／初演：1881年11月12日、ニューヨーク／演奏時間：約40分
楽器編成／フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、ティンパニ、弦五部、独奏ピアノ

タネーエフ

交響曲 第4番 ハ短調 作品12

1878年、セルゲイ・タネーエフ（1856～1915）の生涯に転機が訪れる。この年、師のチャイコフスキーがモスクワ音楽院の教授職を辞し、“自慢の弟子”をその後任に指名した。卒業からわずか3年でタネーエフは、母校に教員として舞い戻ることになる。

この師弟による教授ポストのリレーは、ロシアにおける音楽教育システムの完成を意味している。出来たばかりの音楽院で学生を育て、その学生が教師となりさらに後進を指導し、その後進が次の教師となる。音楽院の“自家製”教育の円環がとうとう閉じたのだ。

チャイコフスキーはタネーエフを、作曲や理論の指導者としてふさわしいと評価すると同時に、演奏家としても信頼していた。チャイコフスキーはピアノ協奏曲第1番のモスクワ初演の独奏者として、タネーエフを指名する。そもそもこの曲は、チャイコフスキーが“自慢の弟子”に献呈するつもりで筆を進めた作品だ。以後、タネーエフはピアニストとして、師のピアノと管弦楽のための作品をすべて、ロシア初演することとなる。協奏曲第2番のモスクワ初演も当然、担当した。

さて、タネーエフは母校に奉職後、そこでの仕事に忙殺された。というのも、81年にピアノのクラス、83年に作曲の講座を引き受け、85年には院長の重責を担うまでになったからだ。当然、作曲の筆はなかなか進まない。その状況を打破するためタネーエフは89年、対位法の教師以外のポストをすべて返上し、半ば強引に創作のための時間を作り出した。

自由裁量の増した作曲家はまず音楽理論、つまり創作の土台に関する著作に取り掛かる（1906年脱稿）。それと並行して、すでに着手していたオペラ〈オレステイア〉を完成させた。94年のことだ。タネーエフは90年代、溜まりに溜まった創作意欲をまさに、爆発させている。

そのさなかの98年、作曲家は交響曲第4番を書き上げた。それまでに3曲のシンフォニーをものしていたが、出版にこぎつけたのはこの第4番のみ。そのためこの作品は当初、「第1番」として刊行された。

第1楽章 冒頭、全曲を貫く力強い主題が登場する。長短長（タータター）のリズ

ムに合わせ、大きく跳躍して上行し隣り合った音に下行するモットーだ。短い導入部の後に現れる第1主題は、この音程関係の上下や前後をひっくり返した（反行形・逆行形にした）上で、モットーのリズム原型を保持したモティーフ。一方、続く第2主題は、長短長短長（タータターター）のリズムで、階段を降りるように順次下行したあと大きく跳躍上行する。順次下行と跳躍上行の対比が、両主題の構成原理となっている。

展開部で作曲家は、モットーの反行形や逆行形を駆使してポリフォニックに曲を前に進める。対位法の専門家としての面目躍如^{やぐじょ}。その展開部を聴いていると、上行と下行、ふたつの力動が綱引きしていることに気づかされる。以後、すべての楽章でこの綱引きがおこなわれる。第1楽章は下行の優勢で幕を下ろす。

主題の構成原理のほうは上行と下行の“小さい対比”、楽章の構成原理のほうは同じく“大きい対比”。この上下行の対比の入れ子構造に、マトリョーシカのお国柄を感じなくもない。

第2楽章 長短長（ターターター）韻律の動機が印象的。この動機の長短長（ターター）部分は、第1楽章のモットーと同じ形をしている。この楽章でも上下行の力動が綱引きを展開する。ここでは上行が優位に立つ。

第3楽章 舞曲ジグ風のリズムが特徴的に響く。素早い動きの中にモットーの反行形・逆行形が盛んに登場する。綱引きの結果、この楽章では下行に主導権が移る。

第4楽章 最終楽章のはじめの主題は、冒頭楽章の第1主題とまったく同じ形をとる（ただし拍子が違う）。上下行の綱引きをしながら行進曲風に続く楽章は、37小節に及ぶ保続音の上で緊張感を高めたところで突如停止。直後、総奏で第1楽章第2主題を回想する。そこでも綱引きは続くが、最終的にドラムロールに乗って上行が、高らかに勝利を宣言して作品を閉じる。

〈澤谷夏樹 音楽評論家〉

作曲：1896～98年／初演：1898年3月21日、サンクトペテルブルク／演奏時間：約42分

楽器編成／フルート3（ピッコロ持替）、オーボエ2、クラリネット3、ファゴット2、コントラファゴット、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、打楽器（小太鼓、シンバル、サスペンデッド・シンバル、トライアングル）、弦五部

12/16

12/25

〈第九〉公演

Program Notes

ベートーヴェン

交響曲 第9番 二短調 作品125 〈合唱付き〉

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン（1770～1827）は生涯に九つの交響曲を書いた。そのすべてが交響曲の歴史における輝かしい金字塔であり、とりわけ最後の交響曲第9番〈合唱付き〉はオーケストラに加えて、独唱、合唱までを要する異例の大作となった。以来、後世の多くの作曲家たちは9番目の交響曲を作曲する際に、ベートーヴェンを意識せざるをえなかったはずである。9という数字は交響曲の創作史におけるマジックナンバーといってもいい。

もっとも、ベートーヴェンの交響曲が9曲に終わったのは、たまたまというほかない。ほんのわずかでも作曲家の運命が違っていれば、交響曲第8番や交響曲第10番が最後の交響曲であってもおかしくはなかっただろう。ベートーヴェンの56年あまりにわたる生涯のなかで、交響曲の創作期間は決して長くはない。交響曲第1番が完成されたのは1800年。交響曲第8番は1812年。この12年間に8曲の交響曲が集中的に書かれている。だが、1812年の第8番から1824年の〈第九〉までにはさらに12年間のブランクがある。〈第九〉は季節外れの交響曲と呼びたくなるほど作曲時期が異なっており、もはや書かれなかったかもしれない交響曲が、最後に奇跡的に絞り出されたかのような印象すら受ける。

交響曲第8番から5年後となる1817年、ベートーヴェンはロンドンのフェルディナント・リースから手紙を受け取る。手紙にはロンドン・フィルハーモニー協会のために新作交響曲を2曲書いて訪英してほしいと記されていた。ベートーヴェンはこれをいったんは受諾する。このプランが実現していれば、ベートーヴェンはロンドンで交響曲第9番と第10番を披露していたことになる。

しかし、この訪英が実現することはなかった。ベートーヴェンは後に自身の健康状態のため取りやめざるをえなかったと説明している。加えて、この時期、ベートーヴェンは甥カールの問題に心を砕かなければならなかった。1815年末にベートーヴェンの弟のカスパル・カールが世を去った際、その遺書には9歳の息子カールの共同後見人としてベートーヴェンと母親ヨハンナが指名されていた。甥カールに対して父親としての責任を負うことを望んだベートーヴェンは、ヨハンナはカールの養育者には不適當であると訴え、4年半にわたる法廷闘争に消耗させられるこ

ととなった。1818年にはカールの素行不良による退学処分や、出奔して母親のもとに駆け込むといった事件が起き、独身者ベートーヴェンがよもやの「家庭問題」で翻弄されることになる。当時の日記に心情が綴られている。

「神よ、私が愛しいカールのためによかれと思ってしたことが、他人を苦しめなければならぬこの心の痛みをおわかりでしょう。聖なる御身よ、耳を傾けたまえ。すべての生ける者たちのなかでもっとも不幸なこの私に」

1822年、ロンドン・フィルハーモニー協会からふたたびベートーヴェンに交響曲の作曲依頼が届く。今度こそ9番目の交響曲が書かれることになる。1824年に作品が完成されると、ウィーンの人々からベートーヴェンの新作交響曲をウィーンで初演してほしいという嘆願書が作曲家のもとに届けられた。ベートーヴェンはこれに同意し、ケルントナートーア劇場での初演が決まった。初演では、客席から熱狂的な喝采が寄せられた。

第1楽章 アレグロ・マ・ノン・トロppo、ウン・ポコ・マエストロ。神秘的なトレモロから主題の断片が垣間見え、やがて頂点で全貌をあらわす。あたかも混沌から秩序が生まれるかのような劇的な幕開け。

第2楽章 モルト・ヴィヴァーチェ。激しく煽り立てるようなスケルツォの間にひなびたトリオがはさまれる。ティンパニの活躍が印象的。

第3楽章 アダージョ・モルト・エ・カンタービレ。天上の音楽を思わせる長大な緩徐楽章。平安と瞑想はやがて金管楽器の強奏による突然の呼びかけで遮られる。

第4楽章 プレスト〜アレグロ・アッサイ。轟音とともに開始され、先の三つの楽章が回想された後、「歓喜の歌」の主題があらわれる。バス独唱に誘われて、合唱がシラーの詩による「歓喜に寄す」を高らかに歌う。トルコ風行進曲、トロンボーンを伴った荘重な教会音楽風の合唱、二重フーガなど、次々と多様なスタイルを巡りながら、爆発的な終結部へと向かう。 〈飯尾洋一 音楽ライター〉

作曲：1818年頃～24年／初演：1824年5月7日、ウィーン、ケルントナートーア劇場／演奏時間：約65分
楽器編成／フルート2、ピッコロ、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、コントラファゴット、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ、打楽器（太鼓、シンバル、トライアングル）、弦五部、独唱（ソプラノ、アルト、テノール、バス）、合唱

12/16

12/25

〈第九〉公演

Program Notes

第4楽章
An die Freude
「喜びに」

訳：金子哲理

O Freunde, nicht diese Töne!
Sondern laßt uns angenehmere anstimmen, und freudenvollere!

おお 友よ この調べではない!
さらに心地よく 喜びにあふれる歌を とともに歌おう!

Freude, schöner Götterfunken, Tochter aus Elysium,
Wir betreten feuertrunken, Himmlische, dein Heiligtum!

喜び! 神の閃光^{ひかり} 天国の乙女たち!
私たちは 炎に酔いしれて 天国の汝の聖地に 歩を進める!

Deine Zauber binden wieder, Was die Mode streng geteilt;
Alle Menschen werden Brüder, Wo dein sanfter Flügel weilt.

時の流れに激しく引き裂かれた者も 神の不思議な力によって 再び結びつき
神の柔らかな翼のある場所で すべての人々は 同胞^{はらから}となる

Wem der große Wurf gelungen, Eines Freundes Freund zu sein,
Wer ein holdes Weib errungen, Mische seinen Jubel ein!

ひとりの心の友を持つ 心優しい妻を得る
こうした幸福を得た者は 喜びに唱和せよ!

Ja, wer auch nur eine Seele Sein nennt auf dem Erdenrund!
Und wer's nie gekonnt, der stehle Weinend sich aus diesem Bund!

そうだ、この地上にひとりでも 魂の友を持つ者も とともに歌おう
そして、それが叶わぬ者は 涙とともにこの輪から離れよ

Freude trinken alle Wesen An den Brüsten der Natur;
Alle Guten, alle Bösen Folgen ihrer Rosenspur.

すべての被造物は 自然の乳房から喜びを飲み
善人も 悪人も みな 創造主の薔薇の小路をたどる

Küsse gab sie uns und Reben, Einen Freund, geprüft im Tod;
Wollust ward dem Wurm gegeben, Und der Cherub steht vor Gott.

神は 接吻^{くちづけ}と 葡萄酒と そして 死の試練をくぐった友を 与え給うた
虫にさえも神は快樂を与えた そして天使ケルビムは 神の前に立つ

Froh, wie seine Sonnen fliegen Durch des Himmels prächt'gen Plan,
Laufet, Brüder, eure Bahn, Freudig wie ein Held zum Siegen.

喜びよ 太陽が広い空を 神の定めに従って駆けるように
同胞よ! 自らの道を喜びをもって進め! 英雄が勝利に向かって 走るように!

Seid umschlungen Millionen! Diesen Kuß der ganzen Welt!
Brüder! überm Sternenzelt Muß ein lieber Vater wohnen.

抱き合おう! 幾百万の人々よ! この接吻を全世界に!
同胞よ! 星々の彼方に 父なる神は住み給う!

Ihr stürzt nieder, Millionen? Ahnest du den Schöpfer, Welt?
Such' ihn überm Sternenzelt! Über Sternen muß er wohnen.

幾百万よ ひれ伏したか? 人々よ 創造主を感じるか?
星々の天幕に 神を求めよ! 星々の彼方に 神は住み給う!